

各位

上場会社名 株式会社 平賀
 代表者 代表取締役社長 中村 則丈
 (コード番号 7863)
 問合せ先責任者 取締役管理本部長 柴田 憲一
 (TEL 03-3991-4541)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,719	31	30	10	2.75
今回発表予想(B)	4,503	△52	△66	△181	△49.30
増減額(B-A)	△215	△83	△96	△191	
増減率(%)	△4.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	4,774	△10	△18	△370	△99.89

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,000	166	163	72	19.56
今回発表予想(B)	9,538	133	110	△72	△19.64
増減額(B-A)	△462	△33	△53	△144	
増減率(%)	△4.6	△19.9	△32.5	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	10,002	41	25	△1,148	△309.96

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,985	49	59	39	10.78
今回発表予想(B)	3,755	△51	△53	△168	△45.81
増減額(B-A)	△229	△100	△112	△207	
増減率(%)	△5.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	3,960	58	62	△527	△142.07

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,300	130	150	59	16.02
今回発表予想(B)	7,855	90	90	△92	△24.97
増減額(B-A)	△445	△40	△60	△151	
増減率(%)	△5.4	△30.8	△40.0	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	8,193	75	77	△1,300	△351.00

修正の理由

第2四半期累計期間における業績予想については、世界同時不況による景気後退、個人消費の低迷などから、既存顧客の広告宣伝費の抑制がありました。広告業界におきましてもこのような環境の影響を受けており、広告主各社の広告宣伝活動の抑制により、広告業界全体で前年を下回りました。

印刷業界におきましても、企業収益の低下に伴い、需要減少が続き企業間競争による単価の下落やサイズの縮小等により、依然として厳しい状況のまま推移いたしました。

これらの環境により当初の予想を上回る影響を受け売上高は減少し、全ての利益項目につき下回る見込みであります。これは、第1四半期決算短信で公表いたしました当社前代表取締役が独断で当社仕入業者に対し、資金融通した問題が発生したため、外部調査委員会を設置したため、調査委員会に支払う調査費用や社内調査等に伴う費用が増加したためであります。

また、当社仕入業者に預けていた在庫に対し、現物確認のため実地棚卸しを行った結果、現物確認が出来なかったことにより、特別損失として貸倒引当金繰入額を計上しております。

第2四半期会計期間では、再発防止を防ぐため新体制でスタートし、仕入先の見直しや経費削減を行いコストの減少に努めました。

これにより、売上高が伸び悩むなか、改善の影響が出始め利益率は増加いたしました。

第2四半期累計期間におきましては、第1四半期累計期間にかかった費用や特別損失の計上の影響し業績予想の見直しとなりました。

通期の業績予想は、上期の状況を踏まえ売上高の早期回復は困難な事から下回る見込みとなりました。

しかし、前期実績から下期は年末商戦等により繁忙期を迎え、売上高が増えていることや第2四半期会計期間におけるコスト削減の影響が出始めていることから利益率の改善も踏まえ前回予想は下回るものの業績は回復する見通しとなりました。

また、関係会社はおおよそ予想とおり推移しましたので、個別の予想につきましても同様の理由となります。

以上